

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移した、または普及の参考となる技術情報

令和2年度 第1回農業・農村の課題調整会議

令和2年8月25日(火) 農業研究開発センター 交流・サロン棟

1) 普及に移した技術課題

	課題名	担当
1	果実が大きいイチゴの新品種「珠姫」(たまひめ)	育種科
2	小麦「ふくはるか」の開花期追肥における粒状尿素の利用	育種科

2) 普及の参考となる技術・情報

	課題名	担当
1	良日持ち性ダリアの選抜	育種科
2	マイクロマムの短期開花調節技術の開発	育種科
3	加工用途向け主食用多収品種(平坦向き)の選定	育種科
4	飼料用等多収性水稻品種(中山間向き)の選定	育種科
5	「古都華」のアントシアニンとビタミンC含量	加工科
6	新害虫タバコミハムシ対策について	環境科
7	シロイチモジヨトウの薬剤感受性	環境科
8	ダイコンハムシの薬剤感受性	環境科
9	ハスモンヨトウの薬剤感受性	環境科
10	イチゴで発生したナミハダニ(黄緑型)の薬剤感受性	環境科
11	ヒラズハナアザミウマの薬剤感受性	環境科
12	ミナミキイロアザミウマの薬剤感受性	環境科
13	ワタヘリクロノメイガのジアミド低感受性個体群の確認	環境科
14	トマトすすかび病菌の孢子発芽および菌糸伸長に対する各種殺菌剤の抑制効果	環境科
15	トマト葉かび病の伝染源の特定	環境科
16	トマト葉かび病菌の新レースの発生	環境科
17	薬剤耐性トマト葉かび病菌の発生	環境科
18	アメリカ向け柿防除暦で栽培した柿の品質・残留農薬量の確認	環境科、果樹・薬草研究センター
19	カキに発生するチャノキイロアザミウマ発生ピークの予測	果樹・薬草研究センター
20	コンクリートミキサーを利用したヤマトウキ湯もみ作業の省力化	果樹・薬草研究センター
21	霜害による製茶品質の低下とその軽減方策	大和茶研究センター
22	カノコソウの定植時の株重と栽植密度について	大和野菜研究センター
23	アシストスーツについての検討	大和野菜研究センター
24	大和野菜の機能性成分について	大和野菜研究センター

2. 農業研究開発センター成果発表会

令和3年3月4日(木) 農業研究開発センター 交流・サロン棟

テーマ: 県民の健康につながる「食」の提供

1) 成果の紹介(口頭発表)

発表者		課題名
加工科	濱崎貞弘	柿タンニンの機能性活用への基礎研究
加工科	北條雅也	柿葉を利用した後発酵茶の開発
果樹・薬草研究センター	米田健一	ヤマトウキの食用葉生産技術の開発
加工科	石川亜希	柿糖蜜漬けの製造技術の開発
環境科	平山喜彦	トマト葉かび病菌の新レース及び殺菌剤耐性菌の発生と防除対策
大和野菜研究センター	峯 圭司	奈良に歴史的ゆかりのある遺伝資源の保存と活用

2) ポスターセッション

1	大和野菜の機能性成分等分析
2	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発
3	大和寒熟ほうれん草の亜鉛含有量について
4	イチゴの新品種と有望系統
5	8月咲き小ギク新品種「春日の星」の育成
6	素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜
7	奈良県オンリーワン酒米品種の育成に向けた尿素崩壊性に基づく選抜について
8	2020年のトビイロウンカ大発生について
9	奈良県のカキ園におけるチャノキイロアザミウマ被害の発生状況
10	害虫の発生時期に合わせた基本防除の見直し
11	キハダの苗木の育成について
12	農福連携のための「農作業ガイド」作成

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第52号 2021.3】

〔原 著〕

石川亜希・森岡 正・北條雅也・濱崎貞弘	異なる温度でアルコール脱渋処理した柿果実を用いたシロップ漬けの品質特性	52:1-9(2021)
杉村輝彦・林 良考・辻本誠幸・上田直也・市川胤記	定植後のカキ‘甲州百目’の樹体生育と早期着果を両立する着果管理法	52:11-16(2021)
杉村輝彦・井村岳男	奈良県のカキ園におけるチャノキイロアザミウマ被害の発生状況	52:17-26(2021)
大谷正孝・芳田侃大・平山喜彦・中永絵理・西原正和・浅尾浩史	雨除けトンネル栽培によるイトヒメハギの安定生産技術	52:27-33(2021)

〔短 報〕

杉山高世・森下星子	異なる栽植密度で栽培したダイズ‘サチユタカA1号’および‘サチユタカ’の収量構成要素、収量およびタンパク質含有率	52:35-39(2021)
北條雅也・廣岡健司	イチゴ‘古都華’のアントシアニンとアスコルビン酸の含量	52:40-44(2021)
上田直也・林 良考・杉村輝彦	カキ‘御所’の生理的落果に及ぼすジベレリン処理および環状剥皮の影響	52:45-50(2021)
米田健一	薬用作物ヤマトトウキ(Angelica acutiloba Kitagawa)における葉の収穫部位が根の収量に及ぼす影響	52:51-54(2021)
米田健一・中村剛士・甲斐大運・今中英樹・竹村啓佑・小田明久	薬用シャクヤク収穫作業における振動式デガー利用による作業時間の短縮効果	52:55-59(2021)
大谷正孝・浅尾浩史	定植時の苗の重量がカノコソウの収量に及ぼす影響	52:60-62(2021)

〔特別報告〕

仲 照史	小ギクの開花斉一性に関わる要因解明と未開花茎の成品率向上による一斉収穫技術の開発	52:63-161(2021)
------	--	-----------------

〔研究ノート〕

谷河明日香・奥 勇一・辰巳直子・瀬川賢正	2019年5月の凍霜害が製茶品質に及ぼす影響とその軽減方策	52:162-168(2021)
----------------------	-------------------------------	------------------

【農業研究開発センターニュース第158号 2020.6】

渋柿や甘柿を用いた柿糖蜜漬けの品質比較
良日持ち性ダリアの選抜
ヒロハセネガの栽培について
小麦‘ふくはるか’の開花期追肥における粒状尿素の利用
ヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の効果
イチジクポット樹の低コスト型加温栽培の検討

【農業研究開発センターニュース第159号 2020.12】

イチゴ新品種‘奈乃華’
イチゴ‘古都華’のアントシアニンとビタミンC の含量
薬用作物トウキにおける農薬登録適用拡大の取り組み
薬用シャクヤクにおける収穫作業機械化の検討
茶樹防除暦における基本防除の見直し
イベントや研修の開催について

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明考案者	出願年月日	登録年月日 登録番号	共同開発 機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16.3.24	H22.4.23 特許第4500078号	
切り花収穫機	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21.10.13	H26.11.7 特許第5640270号	農業・食品産業技術総合研究機構 みのる産業(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 宍戸拓樹 佐野太郎	H25.5.2	H27.4.10 特許第5725627号	大阪府立環境農林水産総合研究所 鳥取大学 農業・食品産業技術総合研究機構 ダイブラ(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	(H23.9.13) 国内優先権 H24.9.12	H29.7.28 特許第6179915号	産業技術総合研究所 農業・食品産業技術総合研究機構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号	備考
古都華	奈良県	H23.10.5	21164号	
春日の紅	奈良県	H25.3.6	22340号	
千都の舞	奈良県	H28.3.1	24776号	
千都の風	奈良県	H28.3.7	24876号	
千都の恋	奈良県	H29.3.1	25768号	
千都の粋	奈良県	H29.3.1	25769号	
春日の鈴音	奈良県	H29.3.28	25914号	
HC3-6-10-11	奈良県	H29.4.25	25973号	やまと甘なんばん
春日W1	奈良県	H30.10.10	27042号	
春日Y1	奈良県	H30.10.10	27043号	
春日Y2	奈良県	R2.3.9	27845号	
珠姫	奈良県	出願R1.9.9	出願番号34159号	
奈乃華	奈良県	出願R2.8.26	出願番号34891号	

5. 令和2年度 研究成果情報 (2021.3)

No.	推進部会	成果情報名	科名	研究者
1	野菜	3月以降の果実硬度が高いイチゴの新品種「奈乃華（なのか）」	育種科	矢奥泰章、東井君枝、西本登志、ほか

6. 学会・研究会誌への投稿等

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
井村岳男	タバコノミハムシに対する各種殺虫剤の殺虫効果と本種成虫の生態に関する若干の知見	原著	関西病虫研報	62:21-25	2020.5
浅野峻介・芳田侃大・平山喜彦	mRNA-seqによる奈良県内の主要品目からのウイルス・ウイロイドの網羅的検出とその実用性評価	原著	関西病虫研報	62:39-45	2020.5
井村岳男・玉井喜文・鳥居名実子	奈良県の施設キュウリから採集したワタヘリクロノメイガ幼虫に対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫研報	62:173-174	2020.5
井村岳男	タバコノミハムシに対する各種殺虫剤の殺虫効果と本種成虫の生態に関する若干の知見	原著	関西病虫害研究会報	62:21-25	2020.5
浅野峻介・芳田侃大・平山喜彦	mRNR-seqによる奈良県内主要品目からのウイルス・ウイロイドの網羅的検出とその実用性評価	原著	関西病虫害研究会報	62:39-45	2020.5
井村岳男・鳥居名実子	奈良県の施設キュウリから採集したワタヘリクロノメイガ幼虫に対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	62:173-174	2020.5
山口貴大・小林甫	奈良県のイチゴで発生するヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	62:179-180	2020.5
井村岳男	天敵利用における化学農薬の併用について～露地ナスの土着天敵保護利用を例に～	レビュー	日本農薬学会誌	45:116-120	2020.8
芳田侃大・浅野峻介・須志田浩稔・飯田祐一郎	Occurrence of tomato leaf mold caused by novel race 2.4.9 of <i>Cladosporium fulvum</i> in Japan	短報	Journal of General Plant Pathology	87:35-38	2020.10
Kandai Yoshida, Shunsuke Asano, Hiroshi Sushida and Yuichiro Iida	Occurrence of tomato leaf mold caused by novel race 2.4.9 of <i>Cladosporium fulvum</i> in Japan	原著	Journal of General Plant Pathology	87: 35-38	2020.10

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
平山喜彦・芳田侃大・神川諭	トマトすすかび病に対する殺菌剤の評価	第102回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報62:199	2020. 5. 28
井村岳男・鳥居名実子	奈良県の施設キュウリから採集したワタヘリクロノメイガ幼虫に対する各種殺虫剤の殺虫効果	第102回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報62:173-174	2020. 5. 28
山口貴大・小林 甫	奈良県のイチゴで発生するヒラズハナアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	第102回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報62:179-180	2020. 5. 28
西本登志・矢奥泰章	奈良県育成イチゴ「珠姫」の品種特性	日本家政学会関西支部(誌上開催)	講演要旨:2	2020. 11. 18 ～11. 24
矢奥泰章	ミニパブリカの果実色と収穫時期が機能性成分および嗜好性成分に及ぼす影響	日本家政学会関西支部(誌上開催)	講演要旨:2	2020. 11. 18 ～11. 24
西本登志・矢奥泰章・嶋岡龍平	ストライプペポ種子の保存条件が脂質劣化と嗜好性に与える影響	日本家政学会関西支部(誌上開催)	講演要旨:2	2020. 11. 18 ～11. 24
平山喜彦・勝真雅大・安川人央	特異的プライマーを用いたPCRによるトマトすすかび病菌の検出	令和3年度日本植物病理学会本大会	令和3年度日本植物病理学会本大会講演要旨	2021. 3. 17
山口貴大	イチゴにおけるワタアブラムシの簡易密度推定法の開発	第65回日本応用動物昆虫学会大会	第65回日本応用動物昆虫学会大会 要旨	2021. 3. 24

学会・研究会(ポスター発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
辻本直樹・印田清秀・虎太有里	ImageJを用いたダリア解剖学的特性の解析	園芸学会令和3年度春季大会	-	2021. 3. 27

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ・ラジオ報道

(著書・雑誌)

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
杉村輝彦	奈良県におけるカキ害虫の発生動向と防除対策	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol. 75:46-49	2020. 4
杉村輝彦	4～6月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第308号:6	2020. 4
小島 英	7～9月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第309号:6	2020. 7
矢奥泰章	イチゴ新品種‘珠姫’の育成	施設と園芸	日本農民新聞社	191号：49	2020. 10
小島 英	10～12月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第310号:6	2020. 10
井村岳男	野菜・花き類を加害するヤガ科害虫4種の性フェロモントラップによる誘殺消長	植物防疫	一社) 日本植物防疫協会	第74巻：586-590	2020. 10. 1
井村岳男	今年の奈良県におけるクビアカツヤカミキリ発生状況とその対策	なら植防ニュース	一社) 奈良県植物防疫協会	第117号：3	2020. 10. 1
濱崎貞弘	実は意外と知られていない！？奈良起源のもの、こんなにあります！ 02柿	Discover Japan	(株) ディスカバージャパン	vol. 108：127	2020. 11
瀬川賢正	巻頭言 提言 各府県の茶研究組織のトップから	茶	公益社団法人静岡県茶業会議所	第73巻11月号：P2-3	2020. 11. 1
井村岳男	令和2年度の奈良県におけるトビイロウンカ大発生について	なら植防ニュース	一社) 奈良県植物防疫協会	第118号：3	2020. 12. 1
北條雅也	ホワイトアスパラガスの筒状簡易軟白器具栽培	アスパラガス大辞典	農山漁村文化協会	759－764	2021. 1
小島 英	1～3月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第311号:6	2021. 1
飯田 宰	ヒサカキワタフキコナジラミについて	茶やまと	奈良県茶生産青年協議会	第69号	2021. 2. 22

(イベント展示)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
奈良県農業研究開発センター	県育成品種の紹介、研究成果の事業化、新たな共同研究シーズの発見	アグリビジネス創出フェア2020	2020.11.11-13
果樹・薬草研究センター 大和野菜研究センター	漢方のメッカ推進協議会及び研究分野統合本部研究成果発表会	漢方のメッカ推進協議会及び研究分野統合本部研究成果発表会	2020.11.13
研究開発部、研究企画推進課	業務概要（研究計画・成果）を紹介	NAISTキャリアフォーラム2021	2020.12.17

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
研究企画推進課	センターニュース158号を発行しました	2020.7.16
研究企画推進課	センターニュース159号を発行しました	2021.1.27
研究企画推進課	農業研究開発センター成果発表会を開催	2021.1.27
研究企画推進課	成果発表会ポスターセッション開催！	2021.2.22
研究企画推進課	農業研究開発センターWeb公開デー開催！	2021.3.29

(新聞)

テーマ	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
井村岳男	春夏野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞 第3140号：5	2020.4.3
山口貴大	秋冬野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞 第3157号：9	2020.8.14
井村岳男	外来カミキリ食害拡大 県、目撃情報募る	読売新聞 第24218号27面	2020.8.22
井村岳男・平山喜彦	施設園芸作物の病害虫防除	日本農業新聞 第20558号：4	2020.10.22

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
高松元紀	土のpHについて	環境科	2020.4.11
杉山高世	大豆の新奨励品種	研究企画推進課	2020.5.10
嶋岡龍平	種を食べるカボチャ	育種科	2020.6.14
西野精二	夏ホウレンソウの話	加工科	2020.7.12
杉村輝彦	柿の実が落ちる	果樹・薬草研究センター	2020.8.9
小島 英	薬用植物のお話	果樹・薬草研究センター	2020.9.13
小林幹生	酒米の話	育種科	2020.10.11
森岡 正	柿の加工について	加工科	2020.11.8
飯田 宰	お茶の成分と淹れ方	大和茶研究センター	2020.12.13
峯 圭司	家庭菜園も一年の計は元旦にあり	大和野菜研究センター	2021.1.10
原田優生	種から花を育てる	育種科	2021.2.14
勝真雅大	悪いカビVS良いカビ	環境科	2021.3.14

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
峯 圭司	加藤雅也の角角鹿鹿	奈良テレビ放送	2020.8.22
矢奥泰章	かんさい情報ネットten.	読売テレビ	2021.1.14
西本登志	チマタのハテナ	eo光テレビ	2021.1.20
西本登志	全力投球!!妹尾和夫です。サンデー	ABCラジオ	2021.1.24
西本登志	報道ランナー 知っとくニュースなお金	関西テレビ	2021.2.9
西本登志	とびだせ！タ刊探検隊「吉弥の客間にお越し」	ABCラジオ	2021.3.8

9. 令和2年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

令和3年2月10日開催 農業研究開発センター交流・サロン棟

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
- 中期運営方針に基づき、令和2年度に実施した、7つの大課題、24の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
- 必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
- 農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

上田味哥子	奈良県指導農業士会前会長
江口充	近畿大学 副学長兼農学部長
鶴木千里	前奈良県消費生活審議会委員
前田伸一	奈良県指導農業士会会長
杉山孝	奈良県食と農の振興部長

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
		評価委員の意見				
薬用作物の安定供給	地域ブランド力を高める薬用作物生産技術の開発	抽苔しにくい優良品種の育成	4.0	3.2	3.4	10.6
		・選抜系統では近交系となり弱勢が発現する。その対応を明確にして進められるべきかと思う。 ・1年でも早く優良株を見つけ現場に出して欲しい。				
		実需者の求める高品質な薬用作物生産技術の開発	4.0	3.4	3.6	11.0
		・病害虫の発生は生育に影響を及ぼすが、なるべく農薬の散布回数は少ない方が良いので、散布の適期や適量を見定めて欲しい。 ・植え付け深度により主根形成に差があるというのは興味深い。農家がすぐに対応できる小さな操作で収益性をあげられる。簡単に役に立つ情報ですからマニュアル化を急がれた方が良い。 ・高品質に向けた定植苗及び定植時の条件が明らかになったと理解した。今後は、これらの条件を満たす普及技術を開発していただきたい。				
		単味製剤原料向けトウキの省力栽培技術の開発	4.0	3.6	4.0	11.6
		・除草は大変な作業なので、時間が短縮できるのは大変良いと思う。作業効率が良いと植え付け面積も増やせると思う。 ・局方基準に適合していることを確認しているという点で有意義な研究と言える。 ・単味製剤の承認が得られたことから、生産技術の改良による収量増に対する期待が大きくなっている。スピード感をもって、計画的な研究に取り組まれるよう期待する。				
	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	3.8	3.2	3.6	10.6
		・輸入薬草が手に入りにくくなるかもしれないという話を耳にしたことがある中で、国内産の薬草栽培が増えるのは良いことだと思う。 ・得られた結果に対する考察をもう少し掘り下げて行った方が良いと思う。例えば、「ヒロハセネガは黒マルチを用いることで欠株が抑えられ増収することを確認」とあるが、この原因（メカニズム）が分かれば他の植物への応用性も広がる。 ・現場にあった栽培マニュアル及び面積拡大の方法も含め研究を進めて欲しい。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
		評価委員の意見				
優良品種 の育成	奈良オリジナルの 優良品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	5.0	4.6	4.8	14.4
		・他県でもイチゴの品種がいろいろと出されている中で、奈良ブランドの品種があるのは、より多くの消費者の好みに合わせた味覚のバリエーションが提示できるので期待も大きい。 ・加工品に適した視点で育種を行うというのは良いと思う。品種改良による品質向上もある程度のところで限界に達するのと思う。次の一手をどうするのかといった戦略的な考え方も重要になってくるように思う。 ・ブランド価値を高め、競争力を確保するためには、用途を見据えた改良が必要と考える。				
		需要期に安定して開花する小ギクや特色ある奈良ブランド菊の新品種の育成	5.0	4.4	4.4	13.8
		・盆や彼岸に合わせて出荷できるのは良いことと思う。近年、キクの花のイメージが、和から洋への変わってきていると思う。フラワーアレンジに使い易い形状や色などもあれば良いと思う。 ・品種改良の明確な目標を掲げているので、将来の県内キク産地の振興を見据えつつ、真に必要な品種育成に取り組まれない。				
		新たな高品質甘柿品種の育成	5.0	3.6	4.4	13.0
		・他県のカキの産地と差別化を図る為にも、奈良県のオリジナルの品種は必要と思う。 ・もともと年月のかかる仕事である。バイオテックやマーカー選抜をうまく利用し、育種を加速させている点は素晴らしいと思う。 ・生産者と連携した新品種育成検討会はいい取り組みと思う。成果を出すには相当の期間を要するが、常に産地や市場のニーズを確認しながら、計画的に研究を進められることを期待する。				
		奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.0	4.0	4.0	12.0
		・海外での酒ブームの高まりがある中で、奈良県の品種が出来れば、よりアピールしやすくなると思う。 ・交雑育種に基づく個体選別が地道に続いており素晴らしいと思う。奈良県での育種なので、奈良の土壌や気候に合った良い酒米ができることを期待している。奈良は清酒発祥の地なので、奈良県の酒蔵と連携して事業を展開して頂ければと思う。				
	遺伝資源の保存と 活用	奈良に歴史にゆかりのある遺伝資源の保存と活用	3.8	3.4	3.4	10.6
		・遺伝資源の保存は重要な事業である。令和元年度よりも数が増え、活動が順調に行われていることが拝察できる。ただ、この手の仕事は成果が見えにくく評価しづらい。事業自体の重要性を疑うものではないが、国の事業との棲み分けやコストなどの兼ね合いを考えながら奈良県としてのジーンバンクの規模を考えていくべきだと思う。何か新しい作物の作出というときにジーンバンク事業は威力を発揮する。 ・奈良県として大切な研究であり、現場にうまくつないでほしい。 ・地道な取り組みですが、固有種の確保には不可欠な取り組みと考える。また、保存してある遺伝資源を用いた奈良オリジナル品種の育成に向けた取り組みの充実も期待する。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
		評価委員の意見				
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良の特産品を用いたオリジナル加工品の開発	渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発	4.4	3.4	4.0	11.8
		・柿の加工品を作るのは、「奈良の柿」の認知度を上げるのに必要だと思う。安定した良い商品になるよう期待する。 ・糖蜜漬けが様々な形で加工され、おしゃれなスイーツになることを楽しみにしている。 ・自然災害やコロナ禍など、生果だけに依存するビジネスモデルはリスクが高いことから、加工品の開発に対する期待は大きい。定期的にニーズ把握を行い、売り方を意識した研究を進められることを期待する。				
		柿葉を利用した後発酵茶の開発	4.0	4.0	3.6	11.6
		・近年の健康に対する意識の高まりの中、機能成分の表示のあるなしで、売れ方も変わってしまう。後発酵茶は、個性の強い味のように好みは分かれると思うので、特に機能成分が必要ではないかと思う。 ・廃棄するものを上手く商品化して利益に結びつける研究は重要である。できるだけ利益率の高い加工品を生み出すことが重要になる。 ・出来れば万人受けする味をめざして、体に良くて飲みやすいお茶を開発して欲しい。 ・他の茶との差別化は必須と思う。かなりエッジの効いた味を追求するのもありかと思う。				
	加工適性を高める栽培技術の開発	素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜	4.2	4.4	4.6	13.2
		・三輪素麺というブランドが確立されている中で、県産小麦を使用しているのはより付加価値をつけられる。パン食の人にも十分アピールできると思う。 ・三輪素麺業者や製パン企業が奈良県産のオリジナルパン小麦を使えそうであると答えているので、今後に大いに期待できるかと思う。				
		ワインに適したブドウ品種の果実品質研究	4.0	3.4	3.4	10.8
		・奈良のワインができるのは楽しみである。飲食店等にも良い宣伝になると思う。良いブドウが出来る地域が確定することを願う。 ・自然条件的に難しい面があると思うが、奈良県より南西部の県でも地場産ワイナリーはあると思うので、成果が出ることを期待する。				
高品質に繋がる生産技術の開発	機能性を向上させる生産技術の開発	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発	4.0	3.6	3.6	11.2
		・ルテインを1日に10mg摂取すれば良いと言われている点を強調し、焦点を絞ってみても良い。目に良いとされるルテイン含量を高め、機能性を高めることで大和野菜としての価値を高めることができる。 ・大和野菜の競争力確保のために、ルテイン含量を向上させる平準化技術を開発し、普及につなげることを期待する。				
	輸出向け生産技術の開発	輸出需要向け茶生産技術の開発	4.8	3.8	3.4	12.0
・日本国内でのお茶の消費が減少傾向にある中で、輸出は大変良いことである。より一層の有利販売に向け、品質向上は重要である。 ・光利用で軽減できない病害虫への対応策を明確にしていくことが大事である。 ・今後も研究を進め、大和茶のブランドを伸ばしてほしい。						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
		評価委員の意見				
安定生産 技術の開発	環境変動に対応した 安定生産技術の開発	吸湿剤を使って低コストに施設内の温湿度を調整するシステムの開発	4.0	3.4	3.6	11.0
		・ハウス内の温湿度の調整は難しく、作物によって、過湿による病気の発生もあるので、この設備があればいろいろと管理が楽になる。 ・おもしろい研究であり早く現場にはいるとありがたい。 ・実用化に向けて、企業との共同研究を進められたい。将来的には、環境の自動制御と連動したシステム開発が求められると思う。				
		遺伝子診断技術によるキク、トマトなどの重要病害診断技術の開発	4.8	3.8	3.8	12.4
		・野菜作りにおいて重要病害による被害は深刻である。一種類の農薬を続けて使っていていいのか、間に違う薬剤を使った方が良いのか、その辺りも含めて教えて欲しい。 ・病気は出てからでは遅いので、このような地道な研究は重要だと思う。薬剤の効果については、奈良県における病原菌レースの多様化を常にモニタリングしておけるような簡易マニュアルを作成し、継続的に調査をしておくことも重要かもしれない。				
		計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発	5.0	3.8	4.2	13.0
		・近年の気象の変化が大きく、予測のつかない気温の変化により開花時期の判断がつきにくくなっていると思う。AIがその補助になれば農家も出荷時期が読めるので良いと思う。 ・昨年度から順調に成果やデータを蓄積されているように思う。この調子で引き続き遂行されたら良いと思う。 ・今後、AIを用いた技術が不可欠となることが想定されることから、成果が出ることを期待する。				
省力化技術の開発	生産者に優しい 生産技術の開発	脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発	4.0	3.4	3.4	10.8
		・低木栽培により、作業効率と安全性が確認できれば、これからの若い世代の人達は、より安全に作業ができ長く栽培を続けられ産地を守っていけると思う。 ・良い研究であり早く現場に投入できればと思う。 ・現在は生育状況の評価の段階だが、研究には相当の年月を要することから、果実品質への影響も併せて確認することが必要だと思う。				
		障害者が活躍できる「農業」成立条件の提示	4.2	3.4	3.2	10.8
		・障害者やコーディネーターが農作業のどの分野で障害に応じた適性が見つけられるか、作業内容を知ってもらうのは良い。そこからのガイド活用が広がることを望む。 ・重要な課題であるが、もともと研究的に行えるものではないように思う。自治体としての目標を達成されるように継続的に取り組まれることを期待する。				
		女性に優しい農業機械の開発	4.4	3.4	3.4	11.2
		・女性のみではなく、農業をするすべての人の体への負担の軽減と作業の安全性を高めるのに、いろいろな工夫をするのは大事である。金額の点で買いやすい値段であればなお良い。 ・現場への導入を考えると、低コストが必要なので、コスト面も意識した研究を期待する。				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
		評価委員の意見				
環境保全型農業技術の開発	環境に優しい生産技術の開発	天敵を利用した防除体系の安定化	5.0	4.0	4.0	13.0
		・天敵の利用は減農薬につながり、消費者へのアピールとしては良いことである。しかし、同時に発生する他の病害虫に対し、どのような農薬がどの程度使用できるのかを知りたい。 ・害虫の生物的防除は難しいと思う。このような研究の積み重ねが重要だと思う。				
	有機農業に活用できる技術の開発	有機野菜の総合的害虫管理技術の確立	4.6	3.8	3.8	12.2
		・軟弱野菜類のキスジノミハムシの被害は例年大きいものがある。ハウスはもちろんのこと、露地栽培にも活用できる技術があれば知りたい。 ・メッシュの目合を小さくしたときの問題点の解決策が必要かと思う。 ・有機野菜の生産拡大を目指していることから、成果が出ることを強く期待する。現場への導入を考えた場合、コストや高温対策など、デメリットの解消策も視野に入れる必要がある。				
	土壌改良に活用できる技術の開発	水田転換圃場の土壌改良技術の研究	4.8	3.2	3.2	11.2
		・土壌条件の把握は、農作物を作る上で欠かせない情報である。 ・特定農業振興ゾーンという新しい枠組みの中で出てくるであろう様々なテーマを解析し、モデル化することで同様の地域を拡大いけるのかもしれない。この様な総論的な研究課題も重要だと思う。				

10. 共同研究・受託研究(外部資金研究)の実施状況

研究課題名	共同研究機関	委託事業 (資金) 名	委託機関 (契約先)	担当科・ 研究センター	研究 期間
イチゴの育種素材の検討	—	育成系統評価試験(イチゴ)	農研機構野 花研	育種科	H23～
農地管理実態調査	—	農地土壌炭素貯留等基 礎調査事業	農林水産省 近畿農政局	環境科	H25～
茶樹の新規育成系統における産 地適性の検討	—	茶育種研究に係る系統 適応性・特性検定試験	農研機構果 茶研	大和茶研究センター	H27～
漢方薬原料の地域ブランド化を 目指した高収益複合経営モデル の開発	農研機構西日本農 研、医薬健康栄研、岩 手県、三重県、山口 県	薬用作物の国内生産拡 大に向けた技術の開発 (農水省委託プロ)	農林水産省 →農研機構 西日本農研	果樹・薬草研究セン ター	H28～ R2
傾斜地における安全作業をサ ポートする電動式・移動式作業 台車兼運搬車の開発	三晃精機 (株) 奈良高専	イノベーション創出強 化研究推進事業(農水 省) 開発研究ステージ	農林水産省 →三晃精機 (株)	大和野菜研究セン ター、果樹・薬草研 究センター	H30～ R2
ドローンの利用によるカキ傾斜 地における防除の省力化	農研機構果茶研、鹿 児島県、愛媛県、和 歌山県、三重県、静 岡県、ヤマハ発動 機、丸山製作所、エ スコ、NES、花王、モ ベンティブ・ジャパン、東京農大、住友化学、 シンジェンタ・ジャパン、各 県のJAや生産者	ドローンやセンシング 技術を活用した果樹の 病害虫防除管理効率化 技術の開発(農水省戦 略プロ)	農林水産省 →農研機構	果樹・薬草研究セン ター	H30～ R4
遺伝資源データベースの整備と 公開	農研機構遺伝資源セ ンター	海外植物遺伝資源の民 間等への提供促進(農 水省戦略プロ)	農林水産省 →農研機構	大和野菜研究セン ター	R1～R4
花きの品質低下要因の解明と品 質保持技術の開発	農研機構野 花研ほか	次世代国産花き産業確 立推進事業(持続的生 産強化対策事業のう ち)	農林水産省 →国産花き 日持ち性向 上推進協議 会	育種科	R2
微生物殺虫・殺菌剤を用いた野 菜重要病害虫のデュアルコント ロール技術の開発	農研機構野 花研、摂 南大、宮城県、群馬 県、岐阜県、三重 県、アリストライフ サイエンス、ヤマホ 工業	イノベーション創出強 化研究推進事業(農水 省)	農林水産省 →農研機構 野 花研	環境科	R2～R4
良日持ち性ダリア育成系統の系 統適応性・特性検定試験等	—	ダリア系統適応性検定 試験	農林水産省 →農研機構 野 花研	育種科	R2～
花卉園芸における農作業の作業 条件及び身体動作に関する調査	—	農作業用アシスト装置 開発のための設計条件 の検討(農研機構)	農研機構革 新工学研究 セ	大和野菜研究セン ター、育種科	R2
センシング技術に基づく自動選 果による大規模柿産地の選果作 業省人化の実証	奈良県農協、西吉野 柿部会ほか	労働力不足の解消に向 けたスマート農業実証 プロジェクト(農水 省)	農林水産省 →奈良県農 協	果樹・薬草研究セン ター	R2